

同船については、既に宇田先生により前号に記述されているので省略する。現在の所、生物、海洋関係ともORSOMⅢ号及びCoriolis号による観測資料及び採集物の解析に当たっている。

研究所の建物は、第二次大戦中の米陸軍病院のものを使用している。したがって建物は古いが研究器材は最新のものを備え、新進気鋭の若い研究員が多く活気に溢れている。今後、Coriolis号が西部太平洋の赤道海域の観測調査に使用され、上記の若い研究員によってその解析が進められるならば、この海域における海洋学的、生物学的知見は飛躍的に増大するものと予想される。

Mr. Legandは、1961年ハワイにおける太平洋マクロ生物会議で会ったことがあるが、温厚な研究者である。彼の奥さんはタヒチの王女で、彼の家における士官一同の招待パーティーはタヒチアン、ホスピタリティーに満ち楽しい思い出として残っている。Mr. Rotschiは、スウェーデン、スクリップス研究所等をへて、この研究所に来たものであるが、フランス人的気質にアメリカ人的合理主義を加味した、立派な研究者である。既述したように、他の研究員は20代～30代の若さで、非常に明朗であり、気さくに説明や案内を引き受けてくれた。我々は、船上における塩検のテスト用として、T-Sサリノメーターを試用したが、比較実験を先方のAuto-Labサリノメーターと行った。その結果、両者の値が一致するや、ビールで乾杯してくれた。

俊鷹丸に対する研究所員の見学も行われ、全員の参加のため、狭いサロンは一杯になったが、楽しく日本のビールを味わってくれた。彼等の興味をもったのは、魚群探知機及び多層採水器であった。Coriolis号の士官一同の見学もあり、連日の交歓が続いた。

出港の前日には、Mr. Tonnier所長の宏大な庭園でパーティーが開かれた。このように、ヌメア入港の5日間は瞬間に過ぎ、楽しい思い出を残しながら、俊鷹丸はヌメアを後にした。

3 北洋サケ・マス漁況便り

花 村 宣 彦 (東海区水産研究所)

(昭和41年7月19日付宇田会長および平野幹事)
宛の花村宣彦博士(東海区水研)よりの書かん

その後、御変りなきことと存じます。

一向に御無沙汰しておりまして深く御詫び申し上げます。

今年も北洋に来ております。

私から申し上げるまでもないことですが本年の漁期には、海況異常から来たと思われる漁況異常のために各船団とも大変苦労したようであります。

漁期はじめ5月～6月はじめにかけて千島東方沖に大きく広くはびこっていた2℃以下の水帯のため、サケ・マスの各地方群は北上が押えられると共に沖合では例年よりはるかに東に魚道が偏り例年に比べると経度にして3°～5°近くも東寄りの東経169°～172°あたりが主魚道となりました。

来遊時期(成熟テンポ)も大分遅れていたようで各地方群とも1旬～1旬半ほどの遅れになっ

ておりました。

このため例年ですと東カムチャッカ系の（特に早い湖上群のカムチャッカ河系）ベニザケはその末尾群しか獲れないのですが（♂少く♀の多い）、今年はその群も主群をもろに獲った状態です。

アラスカ海流の張出しも弱かったようで（海洋学的検討はしていませんが例年プリストル系ベニザケが乗って来る独特の濃い深味のあるコンベキ色の水が遂に6月上旬まで見られませんでした。）6月上旬から中旬のはじめまで西経域漁場に頑張りましたが遂にプリストル系ベニザケは来遊せず、例年早い時期には見られますが今年はそんな遅い時期にさえ東カムチャッカ系のベニザケやシロザケ、それに北海道系のシロザケなどが西経域を続々回遊しているのにぶつかりました。

ベニザケ、シロザケ、マス、各地方群について漁況、成熟状況、性比、年齢群、色々な観点から検討してみても、平均1旬ー1旬半来遊状況が遅れていたように思えます。非常によい勉強になりました。

海況が漁況に及ぼす影響の大きさを痛感し、難かしく判らないことにガッカリとする反面、この分野の克服に斗志が湧いて来ます。

帰りましたら折を見て、漁況の変異について、特に各地方群の来遊の遅れ、成熟テンポの遅れ、魚道の偏異などについてお話申上げる機会を得たいと思います。

そして海洋関係の方々の海況の特徴についての検討の結果とよく総合して検討してみたらと思っております。

昨年は豊漁が話題となりましたが、今年は海漁況異常が話題となるようです。

資源グループの来遊量やその構成についての究明や予測と海洋グループの海況見通しと両々要求される所定の水準以上の内容においての見解の総合された基礎の上ではじめて生産に役立つ多くの見解が整備されて行くと思いますし、それなしには、真に役立つものは出て来ないと思います。

今迄より以上に（素直に言って、今迄の資源ー海洋の統一総合検討は充分とは言えないと思います。）もっとじっくりと総合検討する必要があると思います。

それぞれの分野の研究結果をより成果あらしめるためにも是非解決したいと念願します。

取りあえず近況御知らせまで。